[課程―2]

審査の結果の要旨

瀬戸山　有美

本研究は、子どもの体調不良時への職場からの支援として病児／病後児保育サービスのワーク・ファミリー・コンフリクト（WFC）への効果を明らかにするため、大学病院に勤務し未就学児を養育している女性医師および看護師を対象に、サービス開始前後 2 時点における自記式質問紙による観察研究を行ったものであり、下記の結果を得ている。

１．　本研究は傾向スコアを用い、独立変数の院内病児／病後児保育への登録と従属変数の WFC を交絡すると考えられる登録のしやすさを調整するため傾向スコアを用いた解析を行い、院内病児／病後児保育への登録による WFC への効果を検討した。傾向スコアのモデル構築には限界が残ったものの、登録により WFC が有意に低下することが認められた。

２．　WFC の下位尺度である仕事から家庭への葛藤（WIF）、家庭から仕事への葛藤（FIW）に分けて解析をしたところ、両方で登録により有意に低下していた。またわずかであるが WIF で効果量が大きく、職場における女性医療職の仕事と育児の両立を支援として有効である可能性を示唆した。

３．　サブグループ解析において、医師と看護師の両職種において登録により WFC の有意な低下がみられた。また医師において WIF は低下の傾向があり、FIW においては有意な低下があった。看護師において WIF、FIW 両方で有意な低下がみられ WIF でより効果量は大きかった。

４．　傾向スコアが外れ値を示した値について感度分析を行った。その結果傾向スコアを 10 とおいた場合、除外した場合のいずれも 1 の結果を支持するものであった。また傾向スコアの分布が重ならない対象を除外し解析を行ったが、結果は登録により WFC が低下することを示した。

以上、本論文は、大学病院に勤務し未就学児をもつ女性医師および看護師において、院内病児／病後児保育の導入による WFC へ与える効果を検討した。本研究で取りあげた病児／病後児保育は、子どもが体調不良になるという特殊な状況に対する数少ない支援の 1 つであり、社会的意義が大きい。また本支援について縦断的な検討により仕事と育児の両立支援としての効果を初めて評価したことは、今後の本支援の拡大に大きく寄与するものであると考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。